

令和7年度

総務文教常任委員会 行政視察報告書

1 視察日程 令和7年10月8日～10日

2 視察先、視察内容

(1) 滋賀県彦根市 10月8日(火)
午後3時から4時30分まで

- ・自治体業務における生成AIの活用について

(2) 群馬県桐生市 10月9日(水)
午後2時から3時30分まで

- ・ライドシェアの取組について

3 参加委員

坂下善英、平田和太龍

中川直美、駒形信雄、山田伸之、林 純一
(随行 池 秀和)

[1 彦根市視察後の所感]

自治体業務における生成AIの活用について学ぶため、滋賀県彦根市を訪問し、導入の背景、具体的な活用事例、今後の展望について説明を受け、質疑応答と意見交換を行った。

彦根市では、業務の効率化と住民サービスの質向上を両立させる手段として、生成AIの本格導入を進めている。特に、文書作成補助、問い合わせ対応、議会答弁作成支援、職員研修など、庁内の多様な業務でAIを活用しており、導入後は作業時間の大幅な削減や業務品質の平準化に成果が見られているとの説明があった。

導入を進める中で重視された点として、職員一人ひとりが負担を減らしつつ本来業務に集中できる環境づくり、AI活用を前提とした庁内ルール整備、情報管理、リスク対応・少人数体制でも持続可能な行政運営を可能にする仕組みづくりが挙げられた。

佐渡市においても人口減少や職員数減といった構造的な課題が続く中、AI活用は行政運営を維持・強化する有効な手段となり得る。特に、文書作成、議会对応、人事・総務領域など、庁内の基幹業務から段階的に活用を進めることで、生産性向上と住民サービスの質向上の双方が期待できる。また、具体的なルール整備や職員研修、デジタル推進体制の強化など、彦根市の先進事例を踏まえた環境整備を早期に進めることが重要である。

今後、AIを行政の新たな基盤として位置づけ、地域とともに活用を広げていくことで、佐渡市が持続的に成長し、住民に寄り添ったサービスを展開できる体制づくりを進めるべきと感じた。



[2 桐生市視察後の所感（1）]

地域交通を補完する新たな移動手段として注目される「日本版ライドシェア」の導入について学ぶため、群馬県桐生市を訪問し、導入の背景、制度の仕組み、運用状況、行政と事業者の役割分担について説明を受け、質疑応答と意見交換を行った。

桐生市では、数年来のタクシー不足が深刻化しており、特に夜間帯では「飲み会帰りのタクシー不足」「救急時の病院からの帰り」といった市民の声が多数寄せられていた。タクシー事業者の高齢化による離職、新規ドライバー不足、従来の交通サービスだけでは市民の移動を支えられない状況が明らかとなっていた。

こうした課題を踏まえ、桐生市はタクシー事業者と協議のうえ、一般ドライバーが運行に参加できる「日本版ライドシェア」導入を決断した。配車データをもとに不足車両数と時間帯を算出し、国土交通省への申出、事業者の許可申請などの準備を経て、令和6年11月29日に市全域で運行が開始された。運行開始後は、夜間を中心とした移動手段の確保、配車アプリによる事前確定運賃の安心感、若い世代から高齢者まで利用しやすい仕組み、市民ドライバーの新たな働き場の創出など、一定の成果が見られている。令和7年8月までに延べ3,600人以上が利用し、特に金・土曜夜間の需要が多いことから、飲食店など市内経済にも好影響が生まれているとの説明があった。



[2 桐生市視察後の所感（2）]

また、ドライバーは当初想像以上に応募が多く、令和7年8月時点で16名が採用されている。多くが副業として参入しており、タクシー不足を補う柔軟な労働力として機能していた。

佐渡市においても、人口減少や公共交通維持の難しさ、地域ごとの交通空白地の存在、タクシー運転手不足など、桐生市と共通する課題が増大している。特に夜間・早朝帯の移動確保、病院・商業地へのアクセス、観光地間の移動など、柔軟な交通手段の整備が必要である。

今後は既存交通の補完として小規模エリアからの実証、観光と住民ニーズを踏まえた運用モデルの検討、地域住民を巻き込んだ仕組みづくりなど、段階的に新たな移動サービスを構築することが求められる。持続可能な交通網を守るため、桐生市の事例を参考に、地域に合った柔軟な交通施策の導入を進めるべきである。

